

## B(2) 草原を守るためにできることに取り組もう

このプログラムは、これまで阿蘇の草原の素晴らしさや恵みについて学んだ子どもたちが、草原が減少しつつある現状や、今、草原が抱えている問題について学ぶ、「応用編」となります。

### ■プログラムの概要

阿蘇の人々は、昔からくらしの中で草原とかかわってきました。草原とともにあるくらしは、先祖から次の世代へと長年にわたって受け継がれ、それが草原を守ることにつながってきました。しかし近年は、農業形態や生活様式の変化により草の利用が減少し、畜産業の低迷も加わって草原を利用する農家が減ったことで、維持管理が行き届かずヤブになる草原が増えています。

ここでは、草原の危機の要因と、草原を守るために行われている取り組みについて学んだ子どもたちが、草原を守るために自らできることを考え、それを実践します。

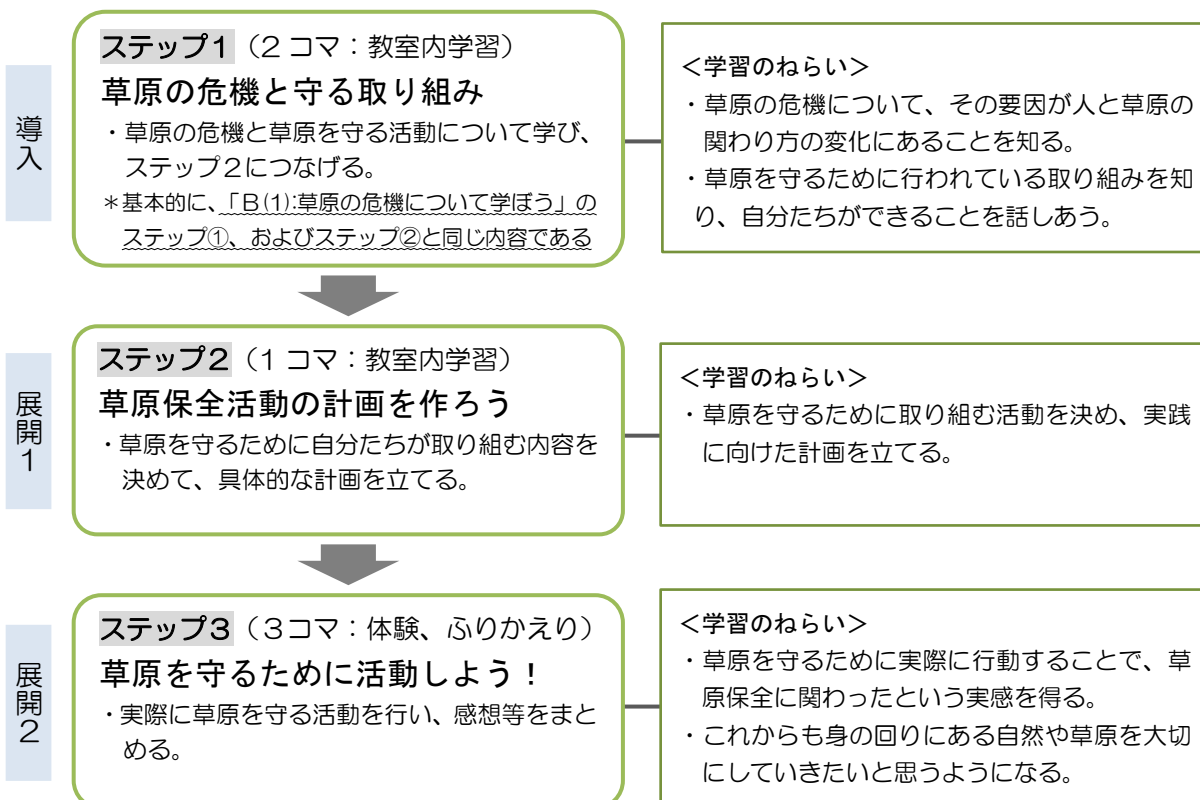
【関連する教科】総合、社会  
【技能】考える、実践する  
【実施概要】

- ・所要時間：全6コマ
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：いつでも

### ■プログラムのねらい

- ・草原の危機について学び、草原を守るために様々な取り組みが行われていることを知る。
- ・学習を通して自らも草原を守るために何かしたいと感じ、草原保全の活動を計画・実践する。

### ■プログラムの流れ



## ステップ1：草原の危機と守る取り組み（導入）

### 1 学習のねらい

- ・草原の危機について、その要因が人と草原の関わり方の変化にあることを学ぶ。
- ・草原を守るために行われている取り組みを知り、自分たちができることを考える。

### ○実施について

- ・所要時間：2 コマ
- ・実施場所：教室
- ・対 象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：いつでも  
\*ステップ③の活動内容によっては季節性があるので注意

### 2 準備するもの

<学校等が用意するもの>

- ・導入 DVD、スライド、紙芝居など
- ・ワークシート

<子どもたちが用意するもの>

- ・筆記用具

### ○講師・スタッフ等

- ・特になし

### 3 学習の進め方

#### (1) 阿蘇の草原について、これまで学んできたことをふりかえる（10分）

- ・これまでの学習を質問形式でふりかえり、阿蘇の草原への子どもたちの理解を確認する。  
⇒子どもたちの考えを聞いた上で導入学習用 DVD へ

<質問の例>

- ・阿蘇の草原について
  - \*草原はどんなところか？
  - \*どうやって今の草原が守られているか？
  - \*自分たちの暮らしにどんな恵みをもたらしているか？ など
- ・管理や利用を止めて草原が荒れ、様々な恵みをもたらす草原が減ってきていることについて
  - \*野焼きが行われていない草原の写真を見てどう思うか？
  - \*なぜ草原が荒れているのか？ など

#### (2) 導入 DVD を視聴し、時代の流れとともに草原が減少していった経緯を知る（5分）

**DVD** ▶メニューから「草原の危機」を選択して視聴。

#### (3) 草原が減っていった要因を考える（15分）

- ・紙芝居を用いて、草原の草をたくさん使っていた頃と今の自分たちの暮らしとを比較しながら、草原が減ってきた要因について考える。

<疑問・回答例>

- \*草原利用と暮らしがどんな風が変わってきたか？
  - 化学肥料の普及により田畑の緑肥や堆肥として草を使わなくなった。
  - トラクターなど農業の機械化が進み、役牛の飼料としての草が不要になった。
  - 茅葺き屋根がほとんどなくなるなど、生活の中で草を使わなくなった。
  - 畜産業の低迷や高齢化等により、放牧頭数や農家の数が減少して草原の利用が減った。
- \*なぜ野焼きなど草原維持管理の継続ができなくなっているのか？
  - 放牧が減ったり、草を利用しなくなったので、野焼きをする必要がなくなった。
  - 畜産農家の跡を継ぐ人が減って高齢化も進み、草刈りや野焼きなどの作業ができなくなった。
  - 地域の人々が草原に行く機会が減り、草原との関わりが希薄になった。

#### (4) 草原が減少するとどんな困ったことが起こるのかを想像し、ステップ2につなげる

(15分)

- ・草原が荒れて、減少していくとどうなるか想像して、話し合う。

※出てきた意見を黒板に書き、問題を整理して、次の学習につなげていく。

- ・学習の感想、疑問に思ったこと、草原の減少を止めるためのアイデアなどを、各自ワークシートに記入する。

(意見の例)

- きれいな草原の景色がなくなる
- 動物のすみかがなくなる、きれいな花が見られなくなる
- 阿蘇に来る観光客が減る
- おいしい牛肉が食べられなくなる など

～休憩をはさむ～ (10分)

#### (5) 草原を守るための具体的な取り組みを知る (20分)

- ・阿蘇の草原を守っていくために、地元や地域外の人々により様々な取り組みが始まっている。

**DVD** メニューから「草原を守るとりくみ」を選択して視聴。

- ・DVDに出てきた取り組み、それ以外の取り組みも含めて、写真や資料を見せながら紹介する。

<取り組みの例>

- \* 預託放牧の受け入れなど放牧牛を増やすための取り組み
- \* 野焼きや輪地切りの作業を都市の人々が手伝うボランティア活動
- \* あか牛肉の消費を増やすための活動 (ブランド化など)
- \* 草原の草を使った農業・農産品づくり
- \* 草原の素晴らしさや現状を沢山の人に知ってもらおう活動 (エコツーリズムなど)
- \* いろいろな活動をする人たちが集まって知恵を出し合い、協力しながら取り組みを進める仕組み (阿蘇草原再生協議会など)

- ・知っている活動があるか?

#### (6) 草原を守るために自分たちにできることはないか考える (25分)

- ・現在進められている草原保全のための取り組みをヒントに、草原を守るために自分たちでできることを考え、発表する。

- ・人の意見も聞きながら、さらに考え、自分たちにできること、やりたいことを各々ワークシートに書き出す。

※紹介した取り組みを参考に、ある程度のヒントを与える。

<ヒントの例>

- \* 草原をきれいにするには?
- \* 草原の利用を増やすには?
- \* 草原の価値や危機について人に知ってもらうには? など

#### 4 配慮事項

- ・このプログラムは、子どもたちが草原の現状や危機について理解した上で実施することで効果的な学習となる。
- ・効果的に学習を進めるために、ステップ1とステップ2の間隔があまり開かないようにスケジュールを組む。

## ステップ2：草原保全活動の計画を作ろう

### 1 学習のねらい

- ・草原を守るために取り組む活動を決め、実践に向けた計画を立てる。

#### ○実施について

- ・所要時間：1 コマ（場合によっては2コマ）
- ・実施場所：教室
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期：いつでも

### 2 準備するもの

- ＜学校等が用意するもの＞
  - ・ワークシート
- ＜子どもたちが用意するもの＞
  - ・筆記用具

#### ○講師・スタッフ等

- ・特になし

### 3 学習の進め方

#### (1) 草原を守るために、自分たちができそうな活動のアイデアを出す（10分）

- ・ステップ1の(6)を踏まえ、自分たちができそうな活動について考えてきたアイデアを発表。

##### ＜アイデアが出てきそうな活動の例＞

- ・草原の美化活動（ゴミ拾い）
- ・草原の野草利用（採草活動、草の人形づくり、卒業証書づくり）
- ・募金活動や広報活動（壁新聞、チラシ・ポスターづくり） など

#### (2) 実際にできそうか、実現可能な活動を抽出する（15分）

- ・列挙されたアイデアから実現可能性のある活動について条件を考え、絞り込む。

（絞り込みの際に踏まえるべきこと）

- ①時期（実施に適した季節）
- ②実施にかかる時間（あまり時間がかかるものは難しい）
- ③実施者（協力者をお願いすることはあっても基本的には自分達で取り組めるもの）
- ④費用（お金がたくさんかかるものは難しい）、など

※児童数が多い場合は、複数の活動を班別に行うことも考えられる。

#### (3) 取り組む活動を決定し、具体的な計画を立てる（20分）

- ・活動の実施に向けて、日時、手順、必要なものなどを検討する。

### 4 配慮事項

- ・子どもたちがアイデアを出し合ってから、検討して絞り込んで決定。さらに具体的な計画を立てるのは、1コマでは厳しい場合もある。可能であれば2コマとり、1コマ目で計画の決定、2コマ目で計画を具体化する。

## ステップ3：草原を守るために活動しよう！

### 1 学習のねらい

- ・草原を守るために実際に行動することで、草原保全に関わったという実感を得る。
- ・これからも身の回りにある自然や草原を大切にしていきたいと思うようになる。

※以下、取り組む活動によって違ってくるが、例として「草原のごみ拾い」の活動について記載。

### ○実施について

- ・所要時間：3 コマ
- ・実施場所：活動内容による
- ・対象：小学校5年生～
- ・実施時期／季節：いつでも  
\* 活動内容によっては季節性がある

### 2 準備するもの

＜事前準備・依頼等＞

- ・実施場所の選定、使用許可  
\* ステップ2で実施内容が決まった後に調整。学校からの距離、安全面、適度にごみがあるかどうかなど、条件を考慮して選定する。  
\* 実施場所の管理者に使用許可をとる。
- ・移動手段の確保：スクールバス、貸し切りバスなど
- ・拾ったごみの収集・処理の手配

＜当日、学校等が用意するもの＞

- ・ごみ袋、トング、ごみを運ぶための車、救急箱
- ・デジカメ（記録用）、ワークシート

＜当日、子どもたちが用意するもの＞

- ・動きやすい服装、軍手
- ・筆記用具（ワークシートに現地で書きこむ場合）

### ○講師・スタッフ等

- ・講師：内容によって必要
- ・スタッフ：担任教諭、協力団体等（生徒数にあわせた人数）

### 3 学習の進め方

(1) 学校で集合 →現地へ（スクールバス等の利用、約30分）

- ・活動の趣旨やスケジュール、注意事項を確認した後、現地へ向けて出発。

(2) 現地到着 →班に分かれてごみ拾い活動（50分）

- ・活動範囲、ごみの集め方、道具、活動の際の注意などを説明した後、班毎に活動を実施  
⇒集まったごみは軽トラック等で回収し、活動終了後ごみ処理場所へ運搬

(3) 草原の散策（30分）

- ・草原を訪れたこの機会に、残りの時間を利用して草原を散策しながら、草原を満喫する。  
※例えば、  
\* 防火帯（秋）や土塁の見学、草原の草花や昆虫等の自然観察  
\* 牧野から谷内が見下ろせる場所では、自分たちが通う学校や家のある集落を探す  
\* 展望のいい場所で、遠くの山や地形を見る。見晴らしのいい場所で記念撮影 など

(4) 活動終了 →学校へ戻る（約30分）

- ・ごみ拾い活動や草原について感じたことや気付いたことなどを自由に発表し、自分たちの活動が、草原を守ることに繋がったことを確認。
- ・活動場所から学校へ戻る。

**(5) ふりかえり (15分)**

- ・ごみ拾い活動の感想、これまでの学習で学んだこと、草原を守るために取り組みたいことなどをワークシートにまとめる。
- ・それぞれのまとめを発表し、みんなが取り組んだ活動が草原を守るために役立ったことを確認。

**4 配慮事項**

- ・ごみの中には危険物が含まれることがあるため、素手でさわらないようにすること。
- ・活動終了後のふりかえり時間が十分に取れない場合は、別に時間を確保するなど工夫を。

**5 展開や応用**

- ・草原を守るために取り組んだことを、壁新聞にしたり、学習発表会などで報告したりすれば、草原に関する広報活動も行うことができ、学習がより深まることが期待できる。
- ・活動内容としては、草原の草の活用に自ら取り組む「A(3) ススキの卒業証書を作ろう」や「A(4) 草原のススキで人形を作ろう」を実施することも考えられる。

◆実施協力団体等

- ・草原環境学習小委員会ワーキング・グループ事務局が相談に応じます。

◆草原体験のフィールドの提供

- ・展望所周辺などが考えられますが、事前に管理者の承諾を得ることが必須です。

◆参考資料

- ・「ついつい子供に伝えたい 阿蘇の草原ハンドブック」／環境省九州地方環境事務所
- ・「阿蘇の草原ワークブック」／環境省九州地方環境事務所